

彼方【あなた】

校長通信
H29.4.12
Vol.4

【笑顔の挨拶】

「もう一度会いたくなる人は？」と聞かれたらそれは、「いつも明るく笑顔で接してくれる人です。」と答えます。



私の父親は私が五歳の時に交通事故で亡くなりました。兼業農家だった私の家は、曾祖母、祖父母、両親、兄妹、私の八人家族でした。その家族を支えていた父親が三十四歳の若さで亡くなりました。さらにその後を追うように祖父、曾祖母が次々と亡くなり、広い家の中がガラんと寂しくなったのを覚えています。私の母は、百姓仕事と保険外交の仕事、家事を掛け持ち、祖母と一緒に三人の子供を育てあげなければなりません。私も小学校三、四年生ぐらいから家業を手伝いましたが、その頃の母親の大変さは相当だったと思います。

父親の葬儀の時、私を抱きかかえながら、母が大泣きしていたのを覚えています。しかし、その後の記憶に母の泣き顔はありません。一度も母の辛そうな顔を見た覚えがありません。いつも「笑顔」でした。私が問題を起こしても「大丈夫！」と笑って言ってくれる人でした。その影響もあり、家の中での私の役割はニコニコしながらおもしろいことをして

和ませることだったように思います。

どんなに厳しい状況も好転させてくれるのは「笑顔」です。眉間にしわを寄せて厳しい表情では何も好転していきません。

子宮頸ガンを嫌い、手術と放射線治療受け、完治した女性が、二年後の経過観察で肺に転移している可能性があることがわかり絶望の淵に立たされました。そんな時、友達から「笑顔じゃなくても、どんなに不機嫌でもあなたが生きていだけで嬉しい。」という友達の言葉に、自分が生かされているということに気づき、笑顔で癌と向き合うようになりました。そして、笑顔でその辛さを受け入れると不思議なことに癌が小さくなり、抗ガン剤治療直前では、ガン細胞が消えていたのです。

笑顔をつくるには十七の筋肉を使い、しかもつ面には四十七の筋肉が必要だと言われています。大変なことや嫌なこと、辛いことは、「大丈夫！必ずやれるから」と自分に言い聞かせ、十七の筋肉で乗り切るのが一番です！しかも人間の脳みそはだまされやすく、嘘笑いでも効果があるそうです。「はははははははは！」と口角をあげて笑うように声を出しただけでも四十五分は集中できるそうです。（授業中に眠くなったら声を出さずにやってみましょう！）

「辛」を「幸」に変える横の一本線は「笑顔」です。白山中を「笑顔満載」の学校にしたい！毎日笑って過ごせる学校にしたい！どんなことがあっても笑顔で乗り切り、明日また来たくなるような学校にしたい。「みがき合い、支え合う」関係には「笑顔」が欠かせません。

一日のスタートは、「笑顔」で挨拶を！

学校入口の横断歩道で登校指導してくださっている方々にお礼を言いたくて、「おはようございます」と挨拶を交わしながら大通りまで向かいました。すると何人かの生徒が、目の前でスツと立ち止まり、ニコツと笑顔で会釈し、挨拶してくれました。とても気持ちがあがりました。私も相手を元気にさせられる笑顔の挨拶を心がけようと改めて思いました。お陰でよいスタートを切ることができ、一日楽しく過ごせたように思います。

避難訓練では「釜石の奇跡」のお話しをしました。東日本大震災で被災されたお年寄りが「笑って前向がねば、なん人もよぐなんねえ。大丈夫！必ず復興すつから！」と笑顔で力強く話してくれたのが忘れられません！その笑顔に自分が励まされているように感じたのを今でもはっきり覚えています。

毎日の何気ない挨拶も「笑顔」というオプションを付けただけで相手に元気を与えてくれます。白山中学校を訪れる全ての人が、来たときよりも元気になって正門を出られるように、オプション付きの「明るく元気な挨拶」を提供し、「笑顔満載」の学校をみんなで作っていきましょう！

そして、笑顔の「挨拶」を白山ブランドに高められるようにみんなで作っていきましょう！



Yahoo サイトより